

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	1070500598		
法人名	株式会社 ユニマツトそよ風		
事業所名	太田ケアセンターグループホームそよ風		
所在地	群馬県太田市飯田町814-1		
自己評価作成日	平成24年2月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成24年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームでの生活が入居者様にとって生きがいであり、この場所で必死に生きていくということを感じ、あるいは思っただけのために、職員は入居者様一人ひとりのことを知り、一人ひとりに必要な支援とは何かを考えられること、そしてそのことを入居者様と一緒に取り組めるように努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の「生活」を支援するため、管理者の「もっとホームを近くに感じていただきたい」との思いのもと、さまざまな取り組みを模索している。地域との関わりにおいては、ホームに来てもらうことだけではなく利用者と共に外へ出ることにより、利用者がホーム内で完結しないように「いきいきサロン」へ参加したり、訪問理美容を見直し美容院へ行くことなどを検討している。また、食事においては、「今日は何にする」の献立づくりから片付けまでを一連の過程と捉え、これまでの朝食づくりに夕食づくりを行い、利用者のできる力を日常生活のなかで発揮してもらう取り組みをしている。入浴についても事業所の都合にあわせることなく、毎日入浴できる体制を整え、時間を決めずに入浴できるよう支援している。ケアに関しては、入居者の思いに耳をかたむけ「アットホーム的生活の場」として家庭での生活の延長を目指して職員全員で取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「大丈夫、そよ風があるから」の会社理念のもと、地域社会の中で頼られる存在でいなければいけないという意識をもち実践に繋げている。	法人の理念のもとに創られた事業所の理念を基に、家庭的な安心して暮らせるホームの環境下で、介護者がいるからこそ本人のしたいように家庭での生活と変わらないように過ごせるよう支援をしている。理念は、エレベーター前に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議においては地域の区長や民生委員の方にご参加いただき、町内の行事にはホームの入居者様も参加している。また、周年祭では周辺地区の民生委員、住民の皆様にもお越しいただきた。	「太田クラシックシティそよ風10周年祭」を記念して、地域の方や民生委員の会合で案内を行い食事会等に招待している。自治会に加入し回覧板が届き、地域の情報を得ているが、参加には至っていない。今後は自分たちが外に出ていくことを検討している。現在、地域のいきいきサロンに住民票のある利用者が参加して、地域の方と共に過ごしている。	今後もホーム内で完結することのないよう、利用者が日常的に地域の方との交流が営めるような取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての理解や、支援の方法など、事業所が中心となって発信はしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会で検討されたことを部署会議においても検討している。	会議の運営については、参加メンバーに訪問看護の職員を加えたり、添付資料を作成したりするなど、日々検討し新しい取り組みを行っている。報告以外に、施設内スペースの有効活用として市民向けの解放を提案するなど、事業所の力を活かした地域貢献に前向きに取り組んでいる。	今後も会議メンバーや議題内容等の検討を行い、更なる双方向的な会議となるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは運営推進会議以外に書類の提出や、パンフレットの配布で行き来している。また、最近では改修工事の際に多く関わっている。	書類提出やパンフレット配布、ホーム改修工事の補助金申請に関わる相談等で出向している。また、ホームのある施設全体の10周年を記念した行事の案内をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	エレベーターホールの施錠については鍵をかけない方針を固めている。現在、施錠しないための取り組みについて検討を行っている。	身体拘束をしないケアについては、ホーム内の全体会議で話し合われている。行動を制限することが身体拘束であるという認識のもと、台所仕事では言葉かけに注意を払い、本人ができることをして頂けるよう支援している。また、ホームの考えを押し付けることのないよう家族との方針の共有が大切と考えている。そうしたなか、エレベーターの施錠をしない取り組みを行い、4階は開錠・3階は時間制限にて開錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてはホーム全体として高い意識をもっている。来年度の内部研修計画は勿論外部研修においても実施、参加をする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会等は開催できていない。成年後見制度を活用されている方の把握程度になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様、ご家族様に不安を与えず、疑問に感じることはよりわかりやすく説明するよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入口にご意見箱を設置している。 ご家族様、ご利用者様からの意見、苦情相談については組織的に検討し解決方法やより良いサービスの提供の為に情報共有している。	面会時に利用者の様子を家族に伝えながら、要望等を聞くように努めている。その他、状態変化等の緊急時はもちろんのこと、利用者の状態を家族が負担にならないよう配慮しながら伝えている。利用者の希望で入浴剤を使用したり、利用者や家族の希望から乳酸飲料の定期購入に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に4回、リーダー会議、グループホーム会議、ユニット会議、全体会議などを実施している。	ユニット会議で職員で話し合われた内容は、グループホーム会議・リーダー会議へとあげられている。職員の意見をもとに、業務時間の変更や業務担当の変更等が行われている。今回の自己評価も職員全員で取り組んでいる。職員は、契約更新時にセンター長と面談する機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度内に2回の昇進できる機会を設け、人事考課や契約更改時の面談を実施している。また、個々のスキルアップを目的とした資格取得も推進している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部では新人研修の実施や、本部での研修、エリア内研修を実施。外部研修についても機会を多く設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会、東毛ブロック主催の研修会などに参加し情報共有を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談に関しては、管理者が一元的に行い、窓口を明確にさせることで安心して情報交換を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談に関しては、管理者が一元的に行い、窓口を明確にさせることで安心して情報交換を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているサービスや必要なサービスについてしっかりと見極め、サービス実施が困難な場合にはそのむねを伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にとって何が必要なのかということを職員が一方的に考えるのではなく、本人と一緒に考えサービスに活かしていくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これまでの本人の生活に関わってきた家族の意見や考えは、これから生活するホーム内においても重要な情報であるとの認識をもち対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の友人や親せきなど、馴染みの方が面会や手紙の連絡があった際には楽しい時間が過ごせるよう支援している。また生活用品についても使い慣れた物の持ち込みによって、少しでも自宅での生活と変わらない生活ができるよう支援している。	これまでデイサービスで油絵をしていた方には継続して油絵をして頂いたり、宝塚が好きな方にはデイサービスの方と一緒にビデオ上映を見たり、大切にしてきたものを継続できるように支援している。クリスマス会やもちつきなどの行事には家族へ案内を出したり、家族との関係に配慮しながら利用者の気持ちを伝えるなど、関係が継続できるよう支援している。現在、訪問理美容を見直しを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援	グループの席については入居者様の関係		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ダイニングの席については入居者様の関係性を考慮した配置になっている。ただし、お互いの感覚や距離感、信頼関係により入居者様同士の決定が原則である考えのもと必要な支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も困ったときには出来るだけの支援を行うことを責任者よりお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式など、本人を知るための方法についてホーム全体で検討している。	日常の会話のなかや、意志疎通が難しい方には声をかけたり触れ合ったりしながら表情で判断し、職員が行った声かけや対応とその反応について職員間で伝え合い、支援をしている。家族とも相談しながら日常生活で必要なものを聞いて揃えたり情報をもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との日常会話やご家族からの情報、馴染みの人からの情報など、本人の生活が楽しく過ごせるために過去の情報収集にも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が今どのような状態、気持ちになっているのかを一日を通してみることで、事故防止や他者とのトラブル、病状の早期発見に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成については随時カンファレンスを開催し管理者、計画作成担当者を含め複数の職員で検討している。また、医師や訪問看護の看護師等、内外の意見も取り入れ行っている。	入居時アセスメント、認定更新時アセスメントを参考にし、居室担当職員が主となって普段の生活のなかから利用者の要望を聞き、家族の要望を聞いて、ユニット会議で職員で話し合い、介護計画を作成している。医療的な部分は、看護師と医師に連絡をとっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子、ケアプランの実施については個人記録に記入し、職員間での情報共有に努めている。また連絡ノートなども活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族様の要望、希望があれば迅速に対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議、地域のイベント、外出など地域資源を活かした取組みを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回往診を受けている。その時々で必要な処置、助言を受けている。夜間、緊急時においても電話連絡できる状況になっている。	ホームかかりつけ医は、月1回その他必要時に往診が可能であり、常時連絡ができる環境にある。入居時に、ホームのかかりつけ医の説明を行い、かかりつけ医を決めている。これまでのかかりつけ医や他科を受診する方は、基本的に家族の付き添いによるが、状況によっては職員が利用者を医療機関で待たせないよう配慮し支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により、訪問看護ステーションとの間に委託契約を結び、日中、夜間問わず連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には、小まめに病院へ出向き、本人の様子や看護師等から病状の経過を確認するなどの対応を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の生活を支援していく中で、終末期の在り方については、家族、主治医と協議をし、在宅の中で可能な限り対応していくことが原則と考えております。	入居時に、入院して3ヶ月以上経過する場合、常時医療行為が必要となる場合には、退居の方針を伝えている。状態が変化する場合には、かかりつけ医と相談の上今後について話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習会への参加、会議における勉強会や事故発生後の対策検討会にて実施しなければいけない対応について検討しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難、通報、消火訓練を実施しているところではありますが、災害訓練となると具体的に実施をしておりません。	年2回、主に夜間想定で火災避難訓練を実施している。区長や民生委員に声をかけて訓練に参加してもらい、今後は区長や民生委員の方をパイプ役として地域の方にも呼びかけていく予定である。震災以降、食糧や水等の備蓄品を被災地へ提供しており、今後補充予定である。	今後、地域の方にも呼びかけて具体的な役割を担ってもらうあるいは連絡網など、地域と連携した避難対策の検討を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりが自分らしく生きていくために、支援していく側として個人を知り、その方に合った対応、必要な対応ができるように心がけております。	行動制限をするような言葉かけ・命令口調な言葉かけあるいは指示語にならないよう注意を払い、管理者は職員に振り返りの機会となるような言葉かけをしたり、利用者がいない時に注意をしたりしている。その他、居室での介助の際にはドアを閉める、入浴の際には身体を隠せるようなタオルを使用するなどの配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様を知ることで、本人の思いや、希望することを理解し、その思いが継続でき、また実現できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様がつくるグループホームをテーマに入居者様の生活リズムの中に職員が入っていき、そのリズムが崩れないように支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が望む身だしなみ、おしゃれが生活の中で自然と行えるように、社会資源の活用や年中行事等、「きっかけ作り」を意識した支援を行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「今日は何を食べようか」と考えるところから始まり、いろんな工程を踏んで、食器を片付けるところまでを総称して、「食事」という認識のもと必要な支援を行っております。	本社の栄養士の献立を基本に、提供している。食事の一連の過程である「今日は何にしようか」の献立づくりから片付けまでの工程に携わることで、レクリエーションとしてではなく日常的な毎日の食事をたのしめるようこれまで朝食のみであったが夕食づくりにも取り組んでいる。また、外食にも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医や家族、本人の生活歴などから必要な栄養、水分について情報収集するとともに、日々の記録や看護師の助言をもらいながら必要な対応をとっております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアについては一人ひとりの行える範囲で実施しており、必要な介助を行っております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄動作についても出来る、出来ないを細分化し、必要な援助を個別的に行うようにしております。	個々のできることを見極めて、できることをして頂いている。また、職員が見守る場合には、違和感のない立ち位置等に配慮して支援している。排泄の声かけが必要な方に関しては、時間をみて声をかけたり、確認したりしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無、状態の把握に努め、主治医、看護師と協力しながら便秘予防と解消に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日を通して入浴ができるように、個別の生活リズムをベースに支援しております。	入浴は、毎日入浴できる体制を整えて、時間も決めずに、事業所のルールにあわせるようなのないよう支援を行っている。羞恥心に配慮して、3階・4階ではあるがブランドをしたり、隠せるようなタオルを用意したりして支援している。入浴を嫌がる方には無理強いせずに時間をおいて声をかけたりしている。個浴対応・2人対応がありそれぞれ好みで利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要な休息や睡眠がとられるように、個々に合わせた対応を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬動作についての検討や、実際に服用している薬について、職員が把握できるよう努めております。また、必要に応じて主治医への助言や報告、連絡を行い対応しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団の生活の中で、自分の役割が何なのかを考えられるように支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出については、買い物や散歩、外食等行っているが、外出が当たり前のできる環境にはなっていない。	気候のよい時には、近くの公園まで歩いたりしている。また、玄関脇の菜園での草取りなどを行っている。その他、買い物や薬局・郵便局などへ行ける利用者を中心に外に出かけている。季節には、初詣やお花見などに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については全て事務所に職員管理されている。必要に応じて持ち出しをする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使用や、手紙、年賀状についても継続できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境作りについては課題が多く、入居者様のニーズを取り入れた空間、環境作りに取り組んでいかなければいけない。	ホテルを改修して3F4Fがホームとなっているため共有空間が狭いので、利用者の状態にあわせて居室以外で過ごせる場所を検討している。ろうか等には、季節の手づくりの飾り物があったり、照明を明るく変更するなど、利用者が安全に心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごすことのできない方にとっての居場所作りについて、検討しながら進めていかなければいけない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご本人の使い慣れた家具や、思い入れのある品について持ち込んでいただくようお話している。	ホテルを改修した居室は広く、洗面・トイレが完備されている。また3階・4階にあるため眺めがよい。背丈ほどの観葉植物や机を持ち込んだり、居室入り口の下駄箱の上に飾り物を置いたりしている。カレンダー・作品・写真等があり、入居者の個性があらわれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」、「わかること」を活かした生活について、入居されている方ができるだけ以前のような生活が送れるように、その方を知り必要な安全が確保され、その生活が営めるよう取り組んでいます。		